



▲優秀賞を受賞した北台さん

「こまい菜」の取り組み語る 中国・四国地区JA青年大会

中国・四国地区農協青壮年組織協議会が11月16日に広島市で開いた中国・四国地区JA青年大会で、当JA青壮年連盟広島中央地区本部の北台昇平さんが

優秀賞を受賞しました。大会には9県から青壮年部員ら約300人が参加。広島県代表として「JA青壮年組織活動実績発表」に出場した北台さんは、同本部のミニハクサイ「こまい菜」の取り組みを発表しました。2017年に栽培を始めた経緯や、栽培方法の統一で生産を高め、名称やパッケージの制作で販売を強化してきたことを紹介。盟友で協力して産地化を目指していることを話しました。

特産PR 黒瀬ハボタン祭り

黒瀬支店ふれあい委員会と黒瀬アグリセンターは12月1日、産直市「となりの農家」黒瀬店でハボタン祭りを開きました。黒瀬花卉部会の部会員が対面で販売し、地元産ハボタンをPRしました。「ファーストレディ」や「晴姿」「初紅」などの品種の切り花約700点の他、寄せ植えや苗などをそろえ、買い物客でにぎわいました。



▲ずらりハボタンが並んだ祭り

前から同部会が栽培に取り組んでいます。正月の縁起物として人気が高く、12月下旬に県内市場やJA産直市などに出荷しました。

猛暑対策で収量増をめざす 夏秋ナス・ピーマン栽培反省会

広島中央地域本部は12月上旬、夏秋ナスとピーマンの栽培反省会を、それぞれ2会場で開きました。生産者やJA関係者らが参加し、今年度生産状況を時系列でふり返りました。

今年は猛暑の影響で露地作物の収穫量が減少傾向でしたが、日射比例型拍動式かん水装置（ソーラーパルサー）を導入した生産では収穫量が安定していました。また、農作物の安定生産に効果が高いとされる植物性活性資材を使った栽培では生育



▲今年度の夏秋ナス生産状況を説明するJA職員

や収量が安定していたことを報告しました。夏秋ナスの生産では部会活動の強化や新規生産者の確保などにより、販売高1億円を目標に活動を展開することを申し合わせました。

地域農業の支援を 衆議院議員に要請



▲新谷議員（右）に要請する三戸組合長

JAは12月21日、新谷正義衆議院議員に、地域農業の維持・

継続に向けた取り組みへの支援を要請しました。三戸正宏組合長が新谷議員に要請書を手渡ししました。西日本豪雨災害からの復旧・復興について復旧が長期化している圃場や、復旧しても肥土が無く土壌改良への資材投入に費用がかかり、厳しい経営を強いられている現状を訴え、支援を求めました。

生産資材の安定供給と高騰対策の措置、新規就農に限らず多様な就農スタイルに対応した就農育成支援、中山間地域での畦畔管理省力化に向けた支援策の創設などを要求しました。



水 稲

育苗準備

2月に入り、まだまだ寒さは厳しいですが、これから徐々に暖かくなり、春を迎えます。育苗作業をするにはまだ早いですが、今月号で説明していきます。

冬の間、米作りの作業は主に土づくりでしたが、これからは本田管理に向けて育苗作業が始まります。米作りの作業においては、田植え日が作業日程の基準となり、育苗作業も田植え日から逆算して始める時期を決めます。田植え日は、地域や農家によって違うので、それぞれ作業計画は入念に立てて作業に取り掛かりましょう。

◆育苗開始の目安
育苗作業を開始する目安は、南部地域で田植え予定日から35日が目安になります。

◆塩水選
種籾の中には、発芽から初期生育にかけて必要とされる栄養源の胚乳が含まれています。胚乳が充実した種籾は発芽率が高く、根に活力もあるため、苗の活着にも優れています。しかし、種籾は見た目だけでは中身の区別が付きません。そこで良質な種籾を選別するために塩水につける「塩水選」を行います。

塩水選を行なうと、胚乳が多く含まれた良質な籾は重いので沈みます。この沈んだ籾を種子として使用します。

塩水選の手順はまず、桶やバケツに籾を投入し、その後、水を入れまです。この時、真水のままで何度かかき混ぜてみてください。真水だけでもある程度、籾は浮き上がります。真水だけの作業を繰り返したら塩水による作業に移りましょう。いもち病やばか苗病にかかっている籾も浮きやすいので塩水選でしっかり除去しましょう。

塩水選終了後は籾に多くの塩分が付着しています。塩分の付着は発芽障害を招く原因となりますのでよく

水洗いをし、水切りを十分に行なってください。

◆種子消毒
ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、イネシソノガレセンチュウなどの予防に、テクリードCフロアブル（200倍）、スミチオン乳剤（1000倍）の混合液に24時間浸漬します。種子消毒後は水洗いせず、浸種作業に移りましょう。

◆浸種
浸種は、種籾を一齐に発芽させるために必要な水分を吸収させる作業です。他にも、もみ殻に含まれる発芽阻害物質を除去する目的があります。

種籾の水分が13%以上になると呼吸が盛んになり、細胞分裂や伸長が始まります。また、水分を吸収することで胚乳の中のデンプンが分解されてブドウ糖となる他、新しい細胞の形成や呼吸をするエネルギー源となり発芽が促進されます。

浸種の際、水温が高いほど早く吸収し、デンプンの糖化も早くなり、催芽活動が早まります。浸種時間も短くなりますが、急激に吸水させるため、発芽ムラが出やすくなります。水温が低ければ時間をかけて吸水するため発芽ムラを抑えることができます。

ます。

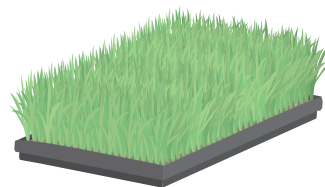
一般的に水温は10℃～15℃が適温で、発芽に必要な積算温度は100℃とされています。（10℃なら10日間、15℃なら7日間）

種籾が銚色になり、胚が白く透けて見える頃が浸種終了の目安です。水温は日光などに当たると変化するため直射日光の当たらない場所です。浸種し、消毒効果の消失を防ぐため最初の3日間は水の交換は避けて、その後は、酸素欠乏防止のため毎日入れ替えましょう。

◆催芽

催芽は温度をかけて発芽を促す作業です。催芽の適温は30℃で20～24時間かかります。催芽ムラがなく、温度が高くなり病気の発生原因とならないように温度管理に注意しましょう。

※育苗で使用する水や薬剤の分量に關しましては水稻栽培ごよみを参考にしてください。



では、3回程度はべと病を対象にした薬剤散布をお願いします。

●防除の例

①	1月下旬	ペンコゼブフロアブル
②	2月下旬	ベトファイター顆粒水和剤
③	3月中旬	プロポーズ顆粒水和剤（一部ベトファイターと同一成分有）

※②・③については追肥・止め肥前後を基準にすると良いでしょう。

右記農薬の倍率や使用回数、またその他の農薬、他の病害虫に関する事など詳細については、最寄りのアグリセンター営農指導員にお問い合せください。

また、気温が上昇し始めると、次第にタマネギの生育とともに雑草も発生し始める時期となります。

タマネギは根が浅く、除草時に根を痛めると減収につながるため、比較的根が傷みにくい3月上旬～中旬までには除草するようにするとともにタマネギごと抜かないように注意してください。

肥料は、「い〜ね707」などの速効性肥料を使用すると良いでしょう。

野 菜

タマネギの仕上げ管理について ◆2月の管理が最終的な収量・品質に直結します！

寒い冬を越したタマネギも年明け2～3月になると次第に生長を始めてきます。この時期の管理が、収量や品質にそのまま直結する大事な時期ですので、次の点に注意し、管理を行ってください。

●追肥は適正量を！
タマネギの追肥（止め肥）は、2月下旬～3月上旬（5日頃）が最適とされます。

基準量は1㎡当り約30gとされていますが、実際の施肥量は基肥や年末の追肥量に応じて加減するようにしましょう。

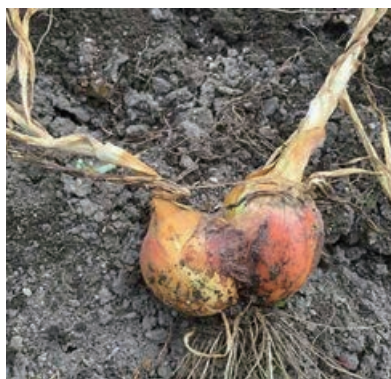
追肥が過剰または時期が遅いと、窒素成分が残ることによるべと病の発生や、収穫後の「腐敗」や「分球」発生につながり、逆に不足すると草勢が低下し「とう立ち」の原因となります。

●追肥の種類に注意！

散見されるのが、余った水稻の一発肥料を誤って施し、窒素成分が後効きすることによる病害助長、貯蔵性低下を招く点です。



▲べと病に感染したタマネギ。初期は葉が湾曲したようになる



▲「分球」施肥量が多すぎると発生しやすくなる



▲「とう立ち」肥料切れ・病害の多発で発生しやすい

◆べと病の発生に注意!!

昨年は4～5月の気温が高く、降水量が多かった影響から、「べと病」が管内各地で多発しました。昨年のような多発環境を作らないためにも、この時期からべと病などの対策を講じていきましょう。

●べと病とは？

べと病の感染や発病は、10～20℃前後で発生するとされ、特に15℃前後で湿度が高い状況で発生しやすくなります。また、窒素肥料の過剰施肥も軟弱生育を招き発生を助長します。

対策は次のことを基本とします。

- ①圃場の排水性を高め、高湿度にしないこと
- ②追肥は過不足なく適正に行なう
- ③薬剤による定期的な防除

●薬剤散布時の注意点

まずは、べと病に感染しにくい環境づくりが重要です。降雨が予想される場合は、降雨前に薬剤散布をして茎葉を保護するようにしましょう。

また、当地域におけるタマネギ防除は、薬剤散布回数が少ない傾向にあります。毎年発生が見られる圃場

協力員廃止のお知らせ

ＪＡひろしま広島中央地域本部では協力員の方々に、購買予約回覧などのＪＡ事業運営にご協力をいただいております。

令和５年１２月末をもって購買予約回覧を廃止したことに伴い、広島中央地域本部の協力員は、令和６年３月末をもって廃止させていただきますことになりました。

長きにわたりご協力いただきました協力員ならびに地域の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

これからも、地域農業の発展と組合員の皆さまの生活のお役に立てるよう、全役職員を挙げて努力いたしますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



購買予約回覧を廃止し 広報誌への折込チラシに変更しています

購買予約回覧を個人情報の観点から令和５年１２月の回覧をもって廃止いたしました。

令和６年１月からは、**本誌に「カタログショッピング」のチラシを折り込んでいます。**

ご注文は、最寄りのアグリセンターに電話をしていただくか、注文書をファックスもしくはご持参ください。



東広島市
園芸センターより

土壌分析・診断サービスのご案内

東広島市園芸センターでは、土作り支援の一環として簡易な土壌分析・診断サービスを行なっています。肥料が適量施用できているか、畑の土の特徴なども改めて確認し、より作物が育ちやすい土作りを目指してみませんか。

対象者：東広島市在住で野菜など園芸作物を出荷販売している方

分析内容：①pH ②EC ③硝酸態窒素量

申込方法：園芸センターかJAアグリセンターへ土を持参していただきます。畑の土の取り方にコツがあるので事前に相談することをお勧めします。

料 金：無料

その他

- ・申し込みから回答まで１週間程度かかります。
- ・施設栽培されている方や認定農業者、認定新規就農者の方には、さらに詳しい診断も実施しています。
- ・専門業者による土壌分析診断サービスを利用される方を対象とした補助事業もあります。詳しくは園芸センターまでお問い合わせください。

申込・問い合わせ 東広島市園芸センター Tel 082-433-4411